

第1号議案

令和3年度 事業報告

令和3年度 事業報告

基本目標

企業一体となった 安全活動を推進して

地域社会に貢献しよう

業務重点

- 1 組織をあげた安全運転管理の推進
- 2 マイカー事故防止対策の推進
- 3 交通安全意識の共有と歩行者保護運転の徹底
- 4 地域と連携した交通安全活動の推進

業務重点

1 組織をあげた安全運転管理の推進

(1) 組織的な安全運転管理の推進

- ア ドライブレコーダーやテレマティクスなど新たな管理システムの導入により、安全運転管理体制の充実強化を図った。
- イ 安全運転管理計画を策定し、組織的な活動を推進した。
- ウ 交通安全講習会、事故防止検討会の開催など、安全教育の充実による交通安全意識の浸透を図った。
- エ 各種表彰制度の活用により、安全運転意識の高揚を図った。
- オ 外国人従業員向けの交通安全教室を積極的に開催した。

(2) 安全運転管理者等に対する安全運転管理能力向上対策の推進

- ア 法定講習の受講が安全運転管理の基本であることから、警察本部交通部交通総務課及び警察署交通課と連携して安全運転管理者等全員の受講に努めた。
- イ 交通事故の発生傾向や特徴を分析した資料等を提供し、事故実態に応じた指導を行った。
- ウ 安全運転管理者等に運転適性検査指導者講習を受講させ、管理能力の向上を図った。
- エ 令和4年4月1日から義務化された運転者に対する酒気帯びの有無の確認等安全運転管理者の新たな業務について周知に努めた。

(3) 安全運転管理者未選任事業所の発見、選任及び入会の勧奨

- ア 安全運転管理者未選任事業所の発見活動を推進し、未選任事業所の一掃に努めた。
- イ 安全運転管理協議会への入会を勧奨して交通安全活動への参加を促し、交通安全活動の充実と組織基盤の強化を図った。

(4) 安全運転管理モデル事業所活動の推進

- ア 警察署長・地区協議会長の連名により「安全運転管理モデル事業所」の委嘱を行い、安全運転管理者の業務を効果的に推進して交通事故の防止を図り、その成果を各事業所及び地域に波及させた。

- イ モデル事業所の活動状況を機関誌「A A K K」で紹介し、優秀な事業所を表彰した。
- ウ 安全運転管理モデル事業所活動の実施要領 … ホームページ「安全運転管理モデル事業所活動」のとおり

(5) 交通安全教育の強化

- ア 新入社員等に対して、企業人としての運転マナーの確立を図った。
- イ 「ながらスマホ」や「妨害運転」の違法性を啓発するとともに、「ながらスマホ」等が引き起こす事故の重大性、悲惨さ等を浸透させて、その根絶に努めた。
- ウ 歩行者保護運転の徹底に努めた。
- エ 運転適性検査を実施して結果を活用した。
- オ 「エコ&セーフティ100日間無事故・無違反運動」に参加した。
- カ 特に高速道路においては、追越し用の車両通行帯を漫然と走行することなく、適切な車間距離を確保し、車両ごとの法定速度を遵守するなど、安全走行に努めた。

(6) 高齢ドライバーの事故防止対策の推進

- ア 交通安全教育シミュレータ等を活用した交通安全教育などを通じて、高齢ドライバーに身体機能の変化を理解させた。
- イ 加齢に伴う身体能力の低下を補う機能を備えた安全運転サポート車は、その安全機能を過信すれば事故抑止効果も失われてしまうことから、ドライバーとしての責任を持った安全運転に努めた。
- ウ 一定期間に複数回の交通事故の当事者となったドライバーに対しては、当該事故の状況や健康状態等を踏まえた交通安全教育を実施するほか、安全運転サポート車の導入と運転免許証自主返納の検討を促した。

(7) 夕暮れ時及び夜間対策の推進

- ア 交通死亡事故が多発する夕暮れ時及び夜間の対策として、警察と協力し「夕方の5～7は“魔の時間”」を広報し、早めのライト点灯を促した。
- イ 夕暮れ時に多発する歩行者・自転車利用者との事故を抑止するため、前照灯を早めに点灯するライト・オン運動を推進した。
- ウ 夜間、歩行者等を早期に発見するため、ハイビームの活用を指導した。

2 マイカー事故防止対策の推進

(1) マイカーの掌握と指導の徹底

- ア マイカー保有者を確実に掌握し、運転免許証、車検証、保険加入状況等を確認した。
- イ マイカー通勤者に通勤経路マップを作成させ、これに基づいた具体的に指導した。

(2) ドライバークラブの結成と活動の強化

- ア ドライバークラブによる自主的な交通安全活動の計画と実行を促した。
- イ 優良運転者に対する表彰（ドライバークラブ表彰等）を積極的に行い、交通安全意識の高揚を図った。
- ウ 自転車通勤者のグループ化を図り、ドライバークラブに準じた指導を行った。

(3) 被害軽減対策の推進

- ア 全席シートベルトの着用及びチャイルドシートの正しい使用を指導した。
- イ 二輪車運転者に対してヘルメットの着用を徹底し、各種プロテクター、エアバッグジャケットの着用を促した。
- ウ 自転車利用時のヘルメットの着用を促した。

(4) 飲酒運転等根絶対策の推進

- ア 飲酒運転の根絶に向けた規範意識の高揚を図った。
- イ 飲酒運転を助長する環境の根絶を図った。
 - (ア) 飲酒を伴う会合の届け出と事前指導の徹底
 - (イ) 飲酒運転周辺三罪（酒類提供・車両提供・同乗）の根絶運動を推進

(5) 自転車安全利用の促進

- ア 愛知県で設置した「自転車の交通安全教育に関する検討会議」に委員として参加して意見を述べるなど、自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例の効果的な推進に努めた。
- イ 自転車利用者に対し、「自転車安全利用五則」を周知して実践するよう指導した。
 - ① 自転車は車道走行が原則、歩道走行は例外
 - ② 車道は左側を通行

- ③ 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
 - ④ 安全ルールを守る
 - 飲酒運転・二人乗り・並進の禁止
 - 夜間はライト点灯
 - 交差点での信号遵守と一時停止・安全確認
 - ⑤ 子どもはヘルメットを着用（愛知県では、自転車利用者は乗車用ヘルメットを着用）
- ウ 自転車乗車時にヘルメットの着用及び反射材用品の自発的な着用を推進した。
- エ 自転車の交通事故により生じた損害を賠償する保険等への加入を促した。

3 交通安全意識の共有と歩行者保護運転の徹底

(1) 交通安全意識の共有

- ア 自動車の安全機能が急速に進化している今日こそ、ドライバー自身の安全意識が重要であることの理解を深めた。
- イ 安全運転を続けることの価値を認め合い、相互に交通安全意識を高め、広く共有することによって安全で快適な交通環境を創出するための意識基盤を醸成を図った。
- ウ 高齢者の身体機能が低下することは当然であり、そのような高齢者に対して多くの安全行動を期待するのではなく、ドライバー自身が高齢者の過失やミスを補う運転行動を徹底するなど、「車が人を守る」交通安全意識の共有を図った。
- エ 多発する交差点関連事故の抑止を図るため、道路交通法に定められた右左折方法等の周知を図った。

(2) 歩行者保護運転の徹底

- ア 横断歩道付近では意識的に歩行者や自転車の発見に努め、横断中や横断しようとしている歩行者等がいた場合には、横断歩道の手前で確実な停止に努めた。
- イ 路面に表示された「ひし形（ダイヤ）マーク」は、前方に横断歩道があることを示しているので、走行中の路面にダイヤマークを見つけたら、アクセルを戻して前方をよく注意し、横断歩行者等の有無を確認するよう周知した。
- ウ 特に住宅地を通行するときは、横断歩道以外の場所でも歩行者が横断することを予測した慎重な通行に努めた。

エ 道路を横断していたり、横断しようとする子供や高齢者を見掛けた場合には、自車の接近に気付いていないことを前提に、子供や高齢者を守る思いやり運転に努めた。

4 地域と連携した交通安全活動の推進

(1) 各季の交通安全運動

警察、関係機関・団体及び地域と連携し、地域あるいは事業所単位の交通安全活動を積極的に展開した。

なお、年間の活動計画を機関誌AAKK4月号で広報した。

ア 春の全国交通安全運動 4月6日(火) ～ 4月15日(木) (10日間)

(ア) 立看板「ゆとりある 心と車間の ディスタンス」10,881本作製した。

(イ) 活動結果を機関誌AAKK7月号で紹介した。

イ 夏の交通安全県民運動 7月11日(日) ～ 7月20日(火) (10日間)

(ア) 立看板「スピードは 視野も心も 狭くする」8,860本作製した。

(イ) 活動結果を機関誌AAKK9月号で紹介した。

ウ 秋の全国交通安全運動 9月21日(火) ～ 9月30日(木) (10日間)

(ア) 立看板「その先の 危険を教える ハイビーム」10,536本作製した。

(イ) 活動結果を機関誌AAKK12月号で紹介した。

エ 年末の交通安全県民運動 12月1日(水) ～ 12月10日(金) (10日間)

(ア) 立看板「まあだだよ ベルトみんなが しめるまで」8,595本作製した。

(イ) 活動結果を機関誌AAKK2月号で紹介した。

(2) 交通安全の日

ア 交通事故死ゼロの日 毎月10日、20日、30日

交通事故死ゼロを目指す日 4月10日(土) 9月30日(木)

イ 高齢者を交通事故から守る日・週間 毎月30日(2月は末日)

高齢者交通安全週間 9月14日(火) ～ 9月20日(月)

ウ 自転車・二輪車の安全利用

○ 自転車・二輪車安全利用の日 毎月10日

○ 自転車・二輪車安全利用月間 5月

○ バイクの日 8月19日(木)

(3) 各種交通安全運動の推進

ア 交通安全スリーS運動

① Stop (ストップ)

- ・ 赤信号は確実にストップ、一時停止場所では自転車もストップ
- ・ 横断歩道や交差点では歩行者優先
- ・ 飲酒運転の根絶

② Slow (スロー)

- ・ 子供や高齢者を見かけたらスローな運転
- ・ 見通しが悪い交差点では徐行

③ Smart (スマート)

- ・ 全ての人に対して思いやりを持った運転と、運転中にはスマートフォン等を絶対使用しないスマートな運転
- ・ シートベルトの全席着用の徹底
- ・ 急発進や急制動をしない、落ち着いたアクセルの踏み込みなど、環境に配慮したスマートな運転

イ ライト・オン運動（夕暮れ時の前照灯早め点灯運動）

(7) 点灯時刻の目安（日没時刻の概ね1時間前）

特に、薄暮から日没後の時間帯に交通死亡事故が多発する傾向にあることから、「夕方の5～7は“魔の時間”」として早めのライト点灯の広報を推進した。

(イ) 歩行者・自転車利用者の明るい服装と反射材用品の利用促進

ウ 歩行者保護運動

(7) 横断歩道の日 毎月11日

(イ) ハンド・アップ運動

歩行者とドライバーが横断時に意思疎通を図るハンド・アップ運動を推進した。

エ 全ての座席のシートベルト・チャイルドシート着用徹底運動

～ 「カチッと100!」を合言葉に、着用率100%をめざして ～

シートベルト・チャイルドシートの日 毎月20日

オ 飲酒運転の根絶

(7) 飲酒運転根絶の周知徹底と広報啓発

「飲酒運転を四（し）ない運動」（運転するなら酒を飲まない。酒を飲んだら運転しない。運転する人に酒をすすめない。酒を飲んだ人に運転させない。）の広報を推進した。

(イ) 飲酒運転を根絶する環境の醸成

事業主、安全運転管理者等が中心となって、飲酒運転を根絶する職場環境を醸成した。

(ウ) 飲酒運転根絶の日・飲酒運転根絶強調月間

○ 飲酒運転根絶の日 毎月第4金曜日

○ 飲酒運転根絶強調月間 12月

カ 「ながらスマホ」や「妨害運転」の根絶

運転しながらの「ながらスマホ」や、「妨害運転」根絶の広報啓発を実施した。

(4) 街頭活動等の推進

ア 地域の関係機関・団体と連携し、各季の交通安全運動、交通事故死ゼロの日等を中心に、積極的な交通安全立哨活動、交通安全キャンペーン等を推進した。

イ 交通安全立哨活動は学童横断場所を中心に実施するなど、通学保護にも配慮した。

ウ 地域住民との交流会を開催した。

一般業務

1 会議等

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、理事会及び総会は中止した。

なお、議案については書面による表決を求め、社員全員の承認を得て原案どおり決議された。

(1) 安全運転管理事務担当者連絡会議

- 月日 4月23日（金）
- 場所 愛知県自動車会館
- その他 警察官の出席なし

(2) 第1回理事会・総会

中止

総会の議案は5月31日に書面決議した。

(3) 会長・副会長会議

中止

(4) 愛知県交通安全県民大会

- 月日 1月19日（水）
- 場所 愛知県芸術劇場
- その他 受賞者のみ

(5) 第62回交通安全国民運動中央大会（東京）

中止

緑十字金章、緑十字銀章及び優良安全運転管理協議会表彰は、2月7日（月）可児交通部長と相羽会長による表彰伝達式を開催した。

(6) 第2回理事会・総会

中止

総会の議案は3月30日に書面決議した。

(7) 会長報告

4月14日（水）、7月21日（水）、10月20日（水）及び2月2日（水）に業務の推進状況を報告した。

2 機関誌「AAKK」の編集発行

機関誌「AAKK」を168,000部（月平均14,000部）発行して安全運転管理情報の共有化を図った。

3 「i（アイ）ネット」による交通情報等の提供とネットワークの確立

警察本部交通総務課の協力・連携してiネットシステムの普及促進を図り、交通情報等を迅速に提供した。

「i ネット」発信件数 106件

4 警察、県・市町村及び関係機関・団体との連携強化

警察、県・市区町村、地区協議会、（一財）愛知県交通安全協会等の交通安全関係機関・団体との連携を強化し、安全運転管理等に係る情報の共有化を図った。また、県安管は、中部管区内はもとより全国の安全運転管理協議会等とも連携して安全運転管理活動の向上を図った。

5 交通安全教育用DVDの貸出（令和3年度購入12本）

交通安全教育用DVD等224本を備え付け、無料貸出した。

- 貸出事業所 360事業所
- 貸出本数 519本

6 運転適性検査指導者講習会の実施

(1) 運転適性検査指導者講習会

- 月日 10月14日（木）、15日（金）
- 場所 愛知県自動車会館
- 受講人員 42人

(2) 事業所における運転適性検査

資格認定を受けた運転適性検査指導員による「警察庁K-2型」の運転適性検査は、44事業所において10,299人を対象に実施され、運転適性診断票に基づいた個人指導が行われた。

7 エコ&セーフティ100日間無事故・無違反運動の実施

- (1) 会員事業所のドライバークラブ等を対象に、夏の交通安全県民運動初日の7月11日(日)から10月18日(月)までの100日間、「エコ&セーフティ100日間無事故・無違反運動」を実施して、達成したチームを表彰し、個人に記念品を贈呈した。

チーム	参加		達成		達成率
若者(1チーム5人)	68チーム	350人	56チーム	280人	85.7%
一般(1チーム10人)	278チーム	2,780人	215チーム	2,150人	77.3%
計	346チーム	3,120人	271チーム	2,430人	78.3%

※ 若者とは16歳以上24歳以下をいう。

- (2) 「エコ&セーフティ100日間無事故・無違反運動に参加して」の感想文を機関誌「AAKK」に掲載して交通安全意識の高揚を図った。

8 調査研究

警察本部交通部の交通事故関係データを分析検討して機関誌「AAKK」に掲載した。
また、地区協議会長等に配布し、安全運転管理業務の資料として活用した。

9 表彰

(1) 優良ドライバー表彰(通年表彰)

ア 愛知県警察本部交通部長・愛知県安全運転管理協議会長連名表彰

(ア) 優良運転者 特賞 84人

(イ) 優良運転者 金賞 129人

イ 警察署長・地区協議会長連名表彰

優良運転者 銀賞 149人

ウ 事業所の長の表彰

優良運転者 銅賞 176人

(2) 愛知県交通安全推進協議会長表彰（県知事・1月表彰）

ア 交通安全功労者	1 人
イ 優良安全運転管理協議会	2 協議会
ウ 優良安全運転事業所	3 事業所

(3) 警察庁長官・全日本交通安全協会会長連名表彰

ア 交通栄誉章	
(7) 緑十字 金章	2 人
(1) 緑十字 銀章	2 人
イ 優良安全運転管理協議会	1 協議会
ウ 交通安全優良事業所	6 事業所

(4) 愛知県警察本部長・愛知県安全運転管理協議会長連名表彰（表彰式：中止）

ア 優良安全運転管理協議会	5 協議会
イ 優良安全運転管理指導者	9 人
ウ 優良安全運転管理者等	152 人
エ 交通安全優良事業所	164 事業所
オ 優良自動車運転者	151 人

(5) 中部管区警察局長・中部交通安全協会協議会長連名表彰（表彰式：中止）

ア 優良安全運転管理協議会	3 協議会
イ 優良安全運転管理者等	14 人
ウ 交通安全優良事業所	12 事業所

(6) 交通安全功労者等表彰（表彰式：中止）

ア 交通栄誉章「緑十字銅賞」	
(7) 交通安全功労者	31 人
(1) 優良安全運転管理者	64 人

イ 中部管区警察局・中部交通安全協会協議会長連名表彰

(7) 交通安全功労団体

2 団体

(イ) 交通安全功労者

17 人

(7) 愛知県警察本部交通部長・愛知県安全運転管理協議会長連名表彰 (12月表彰)

エコ&セーフティ100日間無事故・無違反運動達成

271 チーム

法定講習

愛知県公安委員会から委託を受け、道路交通法第108条の2の規定による安全運転管理者及び副安全運転管理者の法定講習を次のとおり実施した。

本年度も新型コロナウイルスの感染リスクを考慮し、警察本部と協力してオンラインによる講習を実施した。

区分	安全運転管理者	副安全運転管理者
実施回数	43回（12回）	11回（3回）
管理者数	20,247人	6,165人
受講者数	18,987人（5,941人）	5,675人（1,724人）
受講率	93.8%	92.1%

※（ ）は、オンラインによる講習を内数で示す。